

ほんよも

No. 021



桂陽高校図書キャラクター
「としよひつじ」

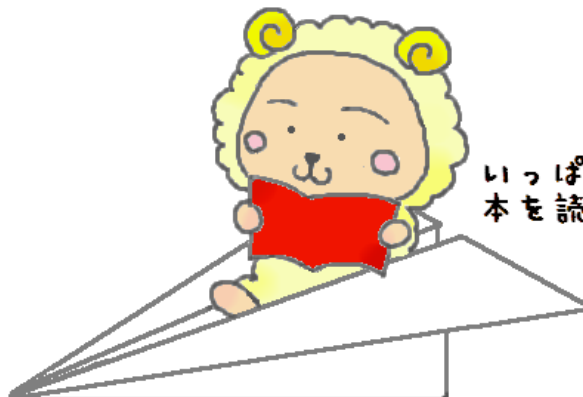


「桂陽図書の100冊」、更新しました！

図書室にある本の中から特に面白い、オススメの本を100冊厳選し、内容を紹介した「桂陽図書の100冊」の2022年度版が出来上がりました。昨年のもので10冊ほど新しい本に入れ替わっています。冊子は図書室に置いてありますので、欲しい人は自由に持って行ってください。読むものに迷ったら、この中から選べば間違いはないと思います。この100冊に選ばれた本は図書室中央の本棚の中に並んでいます。

全校生徒のみなさん、今年も気軽に図書室に遊びに来てください！

桂陽図書の
100冊
2022



いっぱい
本を読メェ～

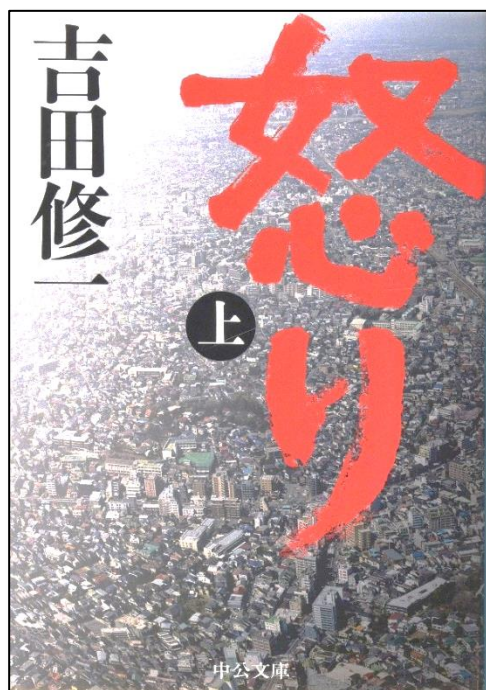
～私が愛した人は殺人犯なのか～

『怒り』（吉田修一）

内容・あらすじ

東京・八王子の郊外で若い夫婦が自宅で惨殺されるという事件が発生。現場には「怒」という血文字が残されていました。犯人は山神一也、27歳。逃亡した山神は全国に指名手配されますが、手がかりがないまま一年が経過。ちょうどその頃、時期を同じくして、千葉の港町で働く愛子、東京の大企業に勤める藤田優馬、沖縄の離島で母と暮らす女子高生・小宮山泉の前に、身元不詳の三人の男が現れます。前歴がわからない三人の男は怪しまれながらも次第に周囲の人々になじみ、受け入れられていきます。

しかし、警察が整形手術後の山神の写真をテレビ番組で公表した後、三人の男が山神の特徴に似ていることがわかり、周囲の人たちは「この男こそ殺人犯ではないか」という疑念を抱き始めます――。



川口先生の感想

前歴不詳の三人の男は全員怪しくて、一体誰が本当の犯人なのか、そして「怒り」の意味は何なのか、が知りたくてどんどん読み進めてしまいます。結局、真犯人は最後の最後で明らかになるのですが――。この小説が面白いのは犯人探しの部分ではなく、そこに至るまでの人間ドラマです。三人の男の近くにいる人はみな**「私はこの人を愛してしまったのだが、もしかしてこの人は殺人犯なのか。考えてみれば怪しい部分がたくさんある。でもそんなはずはない……」**と苦悩するのですが、その苦しさを読み手にも伝わってきて胸が痛くなります。とてもとても心に余韻を残す小説です。テーマは「愛する人を信じ切れるか」。なお、この小説は映画化されています。渡辺謙さん、宮崎あおいさん、松山ケンイチさん、森山未來さん、妻夫木聡さん、綾野剛さん、広瀬すずさんという豪華キャスト。小説を読んだ後で映画を見ると感動が倍加します。私はラストの妻夫木聡さんで泣きました。小説も映画も両方おすすめ。映画だけ見てもよくわからないのでご注意を。